

【4-10 SR レポートのまとめ】

CQ13 妊娠中の乳癌患者に化学療法は推奨されるか？

4 件のコホート研究、5 件の症例対照研究、4 件の症例集積から

- ・ 早産率
- ・ 流産率
- ・ 奇形合併率
- ・ 乳癌無病生存期間 (DFI)
- ・ 乳癌生存期間 (OS)、の 5 つのアウトカムについて検討した。

益：Anthracycline 系薬剤を用いた化学療法は、妊娠中期以降に行うことで奇形合併率は通常の妊娠における奇形合併率と同等であった。乳癌無病再発生存期間 (DFI) と乳癌生存期間 (OS) においても非妊娠期における 5 年生存率は同等である。

害：早産率に関してはサンプルサイズが小さく、かつ癌治療目的の意図的早産との鑑別が困難であり評価ができなかった。流産率に関しては治療的な妊娠中絶も行われているため、評価できなかった。

Anthracycline 系以外の薬剤に関しては、投与されている対象が少なく、上記 5 つのアウトカムについての評価はできていない。